

新野の雪祭り

卷之三

A person wearing a large, red, horned mask with a wide mouth and sharp fangs, dressed in a red traditional Japanese garment, is performing. They are leaning against a wooden railing. In the background, there are other performers in white robes and a fire. The setting appears to be a traditional Japanese festival or performance.

たいきり面

天龍村坂部 大森山諏訪神社 1月4日・5日



厄除気回復などを祈願して産土神と契われる。遠山や奥三河など隣接地域及び、学問的にも価値が高い。

天龍才の霜月神樂

坂部の冬祭り

坂部の冬祭り

坂部の冬祭り



幸法(さいほう)



馬(きょうまん)



阿南町新野 伊豆神社
1月13日・14日・15日朝

伊豆神社および諏訪神社を中心に繰り広げられる田楽系の芸能。その系譜は春日若宮おん祭り（奈良県）や西浦田楽（静岡県）との関わりが指摘されている。古くは「正月神事」「田楽祭り」などと呼ばれていたが、大正15年（1926）に民俗学者の折口信夫がこの祭りを見学し、全国に紹介した際に俗称の一つであつた「雪祭り」の名が広まつたといふ。この祭りの存在は彼の「まれびと」論や「翁」論に大きな影響を与えた。

1月13日に伊豆神社の宝蔵に納められていた面形を諏訪神社へ運ぶ「お下

14日夕方、諏訪神社を発した「お上り」が行われ、同神社で面化粧や試しの舞などが行われる。

新野の盆踊り

卷之三



天龍村大河内 大河内池大神社 1月5日



大河内池大神社の例祭

The map shows the route of the Oshioike Daijinsya例祭. It starts at the '池大神社' (Oshioike Daijinsya Shrine) in the bottom center, marked with a red dot. The route follows a winding brown line through the town. Key locations labeled along the way include '道の駅 信州新野 千石平' (Roadside Station Shinko Shinno), 'おきよめの湯' (Okiyome-no-yu hot spring), '至飯田市' (To Iida City), '151' (Highway 151), '418' (Highways 418 and 446), '446', '447', and '壳木村' (Kagimura Village). The text '大河内池大神社の例祭' (Oshioike Daijinsya Shrine's Festival) is written in red at the bottom of the map area.



新盆の切子灯籠を送る「踊り神送り」が行わることが特徴で、民俗学者の柳田國男が祖先祭祀の古い姿を残すものとして高く評価した。踊りの種類は扇子を使うものが4つ、手踊りが3つで、このうち「能登」は踊り神送りでのみ踊られる。また8月第4土曜日にも「うら盆」と称し盆踊りを行う。



踊り神送り

遠山の霜月祭り

【飯田市上村地区】 国重要無形民俗文化財

中郷 正八幡宮 / 12月第1土曜日(前日は宵祭り)
上町 正八幡宮 / 12月11日(10日は宵祭り)
程野 正八幡宮 / 12月14日(13日は宵祭り)
下栗 拾五社大明神 / 12月13日(12日は宵祭り)

【飯田市南信濃地区】 国重要無形民俗文化財

八日市場 日月神社・中立正一位稻荷神社 / 12月1日(隔年交代)
小道木 熊野神社 / 12月第1日曜日
木沢 正八幡神社 / 12月第2土曜日
和田 諏訪神社 / 12月13日
八重河内 尾野島正八幡社 / 12月15日



和合の盆踊り

阿南町和合 熊野社、林松寺 他
8月13~16日

「下伊那のかけ踊り」に含まれ、長野県を代表する盆の盆踊りの一つ。13日は切子灯籠、旗、ヒッチキ(ヒッチキ棒と擦りザサラ)、太鼓、鉦、笛、ヤツコ(花、柳)が行列を組み、集落内の熊野社から和合の開祖とされる宮下家を経て林松寺へ練り込む。各所では庭入り・念仏・和讃を行う。庭入りでは紙垂(しで)をつけた菅笠をかぶった男たちが、太鼓やササラを鳴らしながら跳ね踊る。



14・15日は林松寺で盆踊りや新仏供養の念仏踊りを行い、16日は13日と逆の道順で念仏踊りと行列を行う。伝承では宮下家の15代当主が寛保2年(1742)に川中島(長野市)で習い覚えたとされるが、宮下家の出身地である浜松の遠州大念仏との関連性も指摘されている。

暁の時間が最も短くなる霜月(旧暦11月)に、太陽の衰弱と再生になぞらえて命の「生まれ清まり」を願うために夜を徹して行われる祭り。遠山地方では村人が産土神にさまざまな願をかけ、その御札を果たす「願ばたき」の機会でもあった。祭りが現存するのは飯田市南信濃6カ所、同市上村4カ所の計10カ所で、それぞれの特徴により和田・木沢・下栗・上町の4タイプに大別される。基本的に夕刻近くから祭場を祓い、神名帳を読み上げて全国の神々を勧請する。神々はかまどの上に吊るされた切紙の飾りを伝つて降臨する。そして名帳を読み上げて全國の神々を勧請する。神々はかまどの上に吊るされた切紙の飾りを伝つて降臨する。そして

土王の湯切り(程野 正八幡宮)

氏子は神楽歌を歌いながら神々が湯を捧げる湯立てと、それとともに湯を延々と繰り返す。神事は簡便と呼ばれる地元の宗教者がつかさどり、印を結び九字を切る姿は神仏混淆時代の形を残している。

鎮めの湯を終えて全国の神々が帰ると、神社の祭神や地区内の神々が面となつて登場し、その数は一社あたり15~40面に及ぶ。素手で釜の湯を跳ねと



天伯(木沢 正八幡神社)

大鹿歌舞伎

国重要無形民俗文化財

大鹿村 大磧神社舞台 5月3日
市場神社舞台 10月の第3日曜日



奥州安達原 袖萩祭文の段

大鹿歌舞伎は、神社への奉納芝居として伝承されてきた。村内の旧家には明和4年(1767)春に「狂言」が催されたとの記録があり、これが当地における地芝居の初見である。村内には幕末から明治にかけて13カ所もの舞台が造られ、いまも現役の大磧(たいせき)神社と市場神社を含む7カ所が現存している。

約30種ある演目のうち、「六千両後日文章 重忠館の段」は全国でもこ

こにしか残されていない珍しいものの。悪七兵衛景清や畠山重忠など6人の千両役者が登場する、平家物語の後日談である。素朴ながら人の熱氣があふれる大鹿歌舞伎はたびたび映画やドラマの題材に取り上げられ、2017年には地芝居として初の国重要無形民俗文化財に指定された。



六千両後日文章 重忠館の段



猿の舞(八重河内 尾野島正八幡社)

ばす火の王や水の王は修驗道の影が濃く、領民の一揆によって滅ぼされたとの伝承がある遠山氏一族の面は御靈にく影響しているとみられる。この方は鎌倉時代に鶴岡八幡宮(鎌倉市)の所領だったことから、同宮の面行道や鎌倉神楽との関連を指摘する研究もある。

祭場となる神社の主祭神は八幡が多く、それらの信仰が祭りの形成に大きく影響しているとみられる。この地

伊那の人形芝居

国選択無形民俗文化財

上伊那郡箕輪町の古田人形とともに3カ所が国選択無形民俗文化財に選定されている。いずれも三人遣いの人形浄瑠璃だが、その始まりは一人遣い時代である18世紀初頭以前に遡るとみられるものもある。

黒田人形

元禄年間(1688~1703)に正覚真海という僧が若者たちに教えたのが始まりとされる。以降、淡路や大阪から師匠を迎えて技を向上させてきた。人形の操法に「手」と呼ばれる30種近くの古い型を伝えている。元文2年(1737)の銘があるものを含め、約100点のかしらを保存している。人形舞台は天保11年(1840)に建てられた国内最古・最大級で、国の重要有形民俗文化財。



飯田市上郷黒田
下黒田諏訪神社
毎年4月第2土・日曜日



南山の樽木踊り

国選択無形民俗文化財



泰阜村温田
南宮神社 他
8月第3土曜日



大河内の鹿追い行事

国選択無形民俗文化財



天龍村大河内 池大神社 旧暦3月3日(現4月中旬)



狩人役の獺宣と勢子役の氏子2人が、周辺の山々から鹿を追い立て射止めるまでの様子をかけあいで演じる。仕留められた雌雄の蔓鹿は、子どもたちが腹を割って中の餅や小豆飯を食べる。その後、神社下の愛宕堂前から疫病除けの神送りが行われる。諏訪信仰と関わりのある狩猟儀礼として注目されている。

伊那谷のコト八日行事

国選択無形民俗文化財



天龍村大河内 池大神社 旧暦3月3日(現4月中旬)



「コトの神送り」「カゼの神送り」などと呼ばれる疫病神送りと、その前日もしくは数日前に行われる「コト念仏」「大将荒神」がセットになっている地区が多い。飯田市竜東から出している。

下伊那のかけ踊り

国選択無形民俗文化財



天龍村大河内 池大神社 旧暦3月3日(現4月中旬)



飯田市下伊那のかけ踊りは、盆の念佛踊りと深く結びついているのが特色である。その他、飯田市上村下栗では雨乞い、天龍村坂部では雨止めの祈願としても行われていた。いずれも踊りの場(庭)を変えながら、鉦や太鼓の音に合わせて道中沿いの神仏に踊りや詠め歌を奉納している。

下伊那のかけ踊り

国選択無形民俗文化財



天龍村大河内 池大神社 旧暦3月3日(現4月中旬)



飯田市下伊那のかけ踊りは、盆の念佛踊りと深く結びついているのが特色である。その他、飯田市上村下栗では雨乞い、天龍村坂部では雨止めの祈願としても行われていた。いずれも踊りの場(庭)を変えながら、鉦や太鼓の音に合わせて道中沿いの神仏に踊りや詠め歌を奉納している。

下伊那のかけ踊り

国選択無形民俗文化財



天龍村大河内 池大神社 旧暦3月3日(現4月中旬)



飯田市下伊那のかけ踊りは、盆の念佛踊りと深く結びついているのが特色である。その他、飯田市上村下栗では雨乞い、天龍村坂部では雨止めの祈願としても行われていた。いずれも踊りの場(庭)を変えながら、鉦や太鼓の音に合わせて道中沿いの神仏に踊りや詠め歌を奉納している。

下伊那のかけ踊り

国選択無形民俗文化財



天龍村大河内 池大神社 旧暦3月3日(現4月中旬)



飯田市下伊那のかけ踊りは、盆の念佛踊りと深く結びついているのが特色である。その他、飯田市上村下栗では雨乞い、天龍村坂部では雨止めの祈願としても行われていた。いずれも踊りの場(庭)を変えながら、鉦や太鼓の音に合わせて道中沿いの神仏に踊りや詠め歌を奉納している。

下伊那のかけ踊り

国選択無形民俗文化財



天龍村大河内 池大神社 旧暦3月3日(現4月中旬)



飯田市下伊那のかけ踊りは、盆の念佛踊りと深く結びついているのが特色である。その他、飯田市上村下栗では雨乞い、天龍村坂部では雨止めの祈願としても行われていた。いずれも踊りの場(庭)を変えながら、鉦や太鼓の音に合わせて道中沿いの神仏に踊りや詠め歌を奉納している。

下伊那のかけ踊り

国選択無形民俗文化財



天龍村大河内 池大神社 旧暦3月3日(現4月中旬)



飯田市下伊那のかけ踊りは、盆の念佛踊りと深く結びついているのが特色である。その他、飯田市上村下栗では雨乞い、天龍村坂部では雨止めの祈願としても行われていた。いずれも踊りの場(庭)を変えながら、鉦や太鼓の音に合わせて道中沿いの神仏に踊りや詠め歌を奉納している。

下伊那のかけ踊り

国選択無形民俗文化財



天龍村大河内 池大神社 旧暦3月3日(現4月中旬)



飯田市下伊那のかけ踊りは、盆の念佛踊りと深く結びついているのが特色である。その他、飯田市上村下栗では雨乞い、天龍村坂部では雨止めの祈願としても行われていた。いずれも踊りの場(庭)を変えながら、鉦や太鼓の音に合わせて道中沿いの神仏に踊りや詠め歌を奉納している。

下伊那のかけ踊り

国選択無形民俗文化財



天龍村大河内 池大神社 旧暦3月3日(現4月中旬)



飯田市下伊那のかけ踊りは、盆の念佛踊りと深く結びついているのが特色である。その他、飯田市上村下栗では雨乞い、天龍村坂部では雨止めの祈願としても行われていた。いずれも踊りの場(庭)を変えながら、鉦や太鼓の音に合わせて道中沿いの神仏に踊りや詠め歌を奉納している。

下伊那のかけ踊り

国選択無形民俗文化財



天龍村大河内 池大神社 旧暦3月3日(現4月中旬)



飯田市下伊那のかけ踊りは、盆の念佛踊りと深く結びついているのが特色である。その他、飯田市上村下栗では雨乞い、天龍村坂部では雨止めの祈願としても行われていた。いずれも踊りの場(庭)を変えながら、鉦や太鼓の音に合わせて道中沿いの神仏に踊りや詠め歌を奉納している。

下伊那のかけ踊り

国選択無形民俗文化財



天龍村大河内 池大神社 旧暦3月3日(現4月中旬)



飯田市下伊那のかけ踊りは、盆の念佛踊りと深く結びついているのが特色である。その他、飯田市上村下栗では雨乞い、天龍村坂部では雨止めの祈願としても行われていた。いずれも踊りの場(庭)を変えながら、鉦や太鼓の音に合わせて道中沿いの神仏に踊りや詠め歌を奉納している。

下伊那のかけ踊り

国選択無形民俗文化財



天龍村大河内 池大神社 旧暦3月3日(現4月中旬)



飯田市下伊那のかけ踊りは、盆の念佛踊りと深く結びついているのが特色である。その他、飯田市上村下栗では雨乞い、天龍村坂部では雨止めの祈願としても行われていた。いずれも踊りの場(庭)を変えながら、鉦や太鼓の音に合わせて道中沿いの神仏に踊りや詠め歌を奉納している。

下伊那のかけ踊り

国選択無形民俗文化財



天龍村大河内 池大神社 旧暦3月3日(現4月中旬)



飯田市下伊那のかけ踊りは、盆の念佛踊りと深く結びついているのが特色である。その他、飯田市上村下栗では雨乞い、天龍村坂部では雨止めの祈願としても行われていた。いずれも踊りの場(庭)を変えながら、鉦や太鼓の音に合わせて道中沿いの神仏に踊りや詠め歌を奉納している。

下伊那のかけ踊り

国選択無形民俗文化財



天龍村大河内 池大神社 旧暦3月3日(現4月中旬)



飯田市下伊那のかけ踊りは、盆の念佛踊りと深く結びついているのが特色である。その他、飯田市上村下栗では雨乞い、天龍村坂部では雨止めの祈願としても行われていた。いずれも踊りの場(庭)を変えながら、鉦や太鼓の音に合わせて道中沿いの神仏に踊りや詠め歌を奉納している。

下伊那のかけ踊り

国選択無形民俗文化財



天龍村大河内 池大神社 旧暦3月3日(現4月中旬)



飯田市下伊那のかけ踊りは、盆の念佛踊りと深く結びついているのが特色である。その他、飯田市上村下栗では雨乞い、天龍村坂部では雨止めの祈願としても行われていた。いずれも踊りの場(庭)を変えながら、鉦や太鼓の音に合わせて道中沿いの神仏に踊りや詠め歌を奉納している。

下伊那のかけ踊り

国選択無形民俗文化財

